

授業科目名： 地域研究の理論と方法		担当教員名： 陳柏宇、穆堯芊、李春霞、董琪、シャクダ ル・エンクバヤル、中島朋義、新井洋史、 三村光弘	
選択/必修： 選択	単位数： 2	開講学期： 前期	開講言語： 日本語（一部英語）

ディプロマポリシーとの関連

国際社会の知識	政策分析能力	英語コミュニケーション能力
●	●	

○Aim of this class and themes; 授業の到達目標及びテーマ

この授業では、多岐にわたる視点や複合的な研究分野から地域経済、地域内関係、地域間関係について学びます。対象地域の事情に対する理解を総合的に深めることが期待されます。

○授業の概要

地域研究は、政治や経済だけでなく、その地域の歴史、文化、言語、グローバル化などを幅広く対象とします。地域研究を進めるためには、地域発展や関係に関する基本要因、さまざまな政策の意思決定・政策決定プロセスを分析することが必要です。理論に加えて事例研究やフィールドワークといった方法論も重視されます。

○授業の方法

各授業の前に指定された資料をよく読んでください。積極的な姿勢でディスカッションに参加することが期待されます。

○Class schedule; 授業計画

第1回 陳

4/14 イントロダクション

第2回～第3回 李

4/21 「中国の地域経済格差」

中国は改革開放以降、経済が急成長し、世界第二の経済大国になった。一方、中国は深刻な格差を抱えている。中国の経済格差とその発生要因を学ぶ。

4/28 「中国の知的財産戦略とイノベーション格差」

近年、中国は経済発展のため、知的財産権戦略を実施し、イノベーションを推進している。中国ではイノベーションの分野で、成果を遂げたが、地域間のイノベーションの格差も発生した。授業では知的財産権戦略とイノベーション格差を取り上げる。

第4回～第6回 エンクバヤル

Climate change is the most urgent challenge for humanity to address in the 21st century. These series of lectures will address the issues of the anthropogenic GHG emissions into the atmosphere that cause global warming and climate change and international responses to decarbonize the economies aimed at preventing dangerous level of climate change.

5/7 (水曜日) “Climate Change and International Responses to Climate Change”

Reading:

IPCC (2023). Summary for Policymakers. In: Climate Change 2023: Synthesis Report. Contribution of Working Groups I, II and III to the Sixth Assessment Report of the Intergovernmental Panel on Climate Change [Core Writing Team, H. Lee and J. Romero (eds.)]. IPCC, Geneva, Switzerland, pp. 1-34, doi: 10.59327/IPCC/AR6-9789291691647.001

5/12 “Decarbonization and Net-ZERO policies in Northeast Asia”

Readings:

Safonov, G. and Enkhbayar, Sh. (2017). Mitigation of Climate Change: The Breakthrough to. Come from Northeast Asia. ERINA Booklet, Vol. 7, March 2017 (English) and Japanese translated by Nakamura T.

Enkhbayar Sh. (2015). Energy and Climate: Decarbonizing the Energy Supply in Northeast Asia, ERINA REPORT No.126, pp. 20-33

5/19 “Introduction to the En-ROADS Climate Solutions Simulator” (Role playing)

Reading: <https://www.climateinteractive.org/en-roads/>

第7回～第8回 中島(朋)

5/26、6/2 「アジア太平洋地域における制度的経済統合の進展」

1997年のアジア通貨危機を契機として、東南アジア諸国連合（ASEAN）を基点として動きが始まったアジア太平洋地域における制度的経済統合について、これまでの流れを概観する。さらに2010年代以降顕著となった米中対立の深刻化、グローバルサウスの台頭といった状況の変化を織り込んで、地域の今後を展望する。

リーディング：片岡さおり『日本の地経学戦略—アジア太平洋の新たな政治経済力学』2022年、日本経済新聞出版

第9回 新井

6/9 「広域的政策課題に対する工学的アプローチ」

国際協力を必要とするような広域的な政策課題は社会科学や人文科学の分野の研究対象であるのみならず、工学的なアプローチも行われていることを学びます。事例として、ユーラシア大陸の物流シミュレーションモデルを使った分析を取り上げます。

リーディング：Ryuichi Shibasaki, Hirofumi Arai, Kentaro Nishimura. Impacts of Eurasian Transport Connectivity Enhancement on Russia. E3S Web Conf. 135 02001 (2019). DOI: 10.1051/e3sconf/201913502001

第10回 三村

6/16 「北朝鮮研究の方法論」

まず、北朝鮮を地域研究の対象としたときに、どのようなアプローチや方法論があるのかを概説します。その上で、経済や法を主たる関心分野としている研究者が、これまでどのような研究を行ってきたのかを紹介します。研究者の実践から、地域研究の醍醐味と限界について考えてみることにしたいと思います。

リーディング：三村光弘（2024）「第3章 経済・法律——社会を見つめるツールとして」『北朝鮮を解剖する』慶応義塾大学出版会

第11回 董

6/23 「農業経済研究の概要と農村地域形成」

農業経済学の基本的な研究対象と方法について概説し、新潟を事例に農業地域の形成過程と地域農業研究のアプローチを紹介します。

リーディング：荏開津典生、鈴木宣弘 『農業経済学（第5版）』、2020年、岩波書店。

<https://www.iwanami.co.jp/book/b485274.html>

第12回～第15回 穆

6/30 「超大国アメリカの地域経済の成長と構造」

7/3 (木曜日) 「地域一体化を目指す中国」

7/7 「東京一極集中への対応を迫られる日本」

7/14 「EUの都市問題とエネルギー戦略」

○Textbook; テキスト

授業計画を参照

○Further reading; 参考書・参考資料等

○Grading; 学生に対する評価

各担当教員に提出したレポートに基づいて評価を行います。

○オンライン授業に切り替えた場合の授業形態

授業形態：オンライン授業